



トップメッセージ：平和堂社員・意見交換

創業から100年後も、 「なくてはならないお店」であるために

来年60周年を迎える平和堂では、さらにその先の100周年を見据えた取組みを進めています。そのために取り組むべきことは何か。若手社員も含めて、様々な意見を取り交わしました。



創業60周年を目前に、夏原社長は「100年企業」というキーワードを発せられています。なぜ「100年」を意識されたのか。その思いをお聞かせください。

夏原 来年60周年を迎えるにあたって、今一度、会社の未来を考えました。そのうえで会社が長く、そして雇用を守ることが一番大切であることを再認識しました。地域に平和堂があり、そこで働く人がいる。それがあって、初めてお客様にお買い物にお越しいただき、地域に貢献できることで、安定雇用をうむことこそが、私たちの大きな使命です。例えば、売上1兆円といった数値目標ではなく、少しずつでもいいから持続的に成長し、常に安定し100年まで続けていける強さ。CSR(社会的責任)の根本はまさにこれだと思います。企業が存在できなければ、どんなよいことを言ってもその約束が果たせない。そのために大切なのは、人、そしてコミュニケーションだと思います。

来年度には、新本部を建設予定ですが、これもそのお考えの延長上にあるのですね。

夏原 もちろんです。ハード面、ソフト面において100年をめざす企業としてふさわしい本部にしたいと考えています。ここでも、やはりポイントはコミュニケーションです。できるだけワンフロアに機能を集約し、様々なアイデアが生まれる場所にしたいですね。例えばテストキッチンを設けて、新製品のテストなどができるようにする、宿泊設備を設け、社員同士でゆっくり話ができるようにするなど、様々なコミュニケーションが生まれる場所を実現させたいですね。この本部ができたなら、私自身も積極的に話の輪の中に入り、平和堂のDNAを次代へつなげていきたいと思っています。

社長のご発案で取組みを始めた「経営者育成塾」では、平和堂の理念やDNAを直接伝えることが大切であるとおっしゃられています。

夏原 2014年12月から始め、すでに100名の参加者となりました。本に書いてあることだけでなく、直接話をすることで、その思いは伝わります。そして社員は確実に影響を受け、働き方にも変化が見られるようになっていきます。今年の年度スローガンは「1+1=3にしよう」と掲げました。社員がたくさんいても気持ちがバラバラでは1のまま。コミュニケーションを密にし、皆で力をあわせて取り組むことで、1+1は2にも、3にもなるのです。具体的には「情報の共有」「マルチスキルの向上」「チームワークの発揮」といった目標を掲げて取り組んでいます。

新しく「平和堂グループ憲章」を発行されましたが、これについてお聞かせください。



株式会社平和堂 代表取締役社長

夏原 平和

平和堂で働いてよかった、
と言ってもらえるように
がんばります。



もともち
本持 真二
(管理本部 教育人事部長)

1986年入社。アル・プラザ長浜をはじめ複数の店舗において店長職を経験した後、2006年より教育人事部に所属し、以来10年間、平和堂の教育人事に携わってきた人事のエキスパート。2012年より現職。

夏原 100年企業をめざすにはグループの社員全員に「自分の会社」という意識を持っていただくことが大切です。やらされている、という受け身の意識では達成感もないし、働く喜びも半減します。労働環境の改善も、一方的ではなく、社員の皆さんが実際に抱えている不満や問題を解決していくことが大切です。例えば「子どもがいて6時間勤務しかできないけど店長になりたい!」という希望を持つ社員が、それに相応しい人材であれば、制度を改善すればよいと思います。すべての声に応えることは難しいですが、それに挑戦していくことを、それぞれの部署に権限委譲していけばよいことです。

少子高齢化が進む中で、社会のニーズに応えていくことも大切だと思います。平和堂の取組みについて教えてください。

本持 高齢化社会、特に認知症のお客様に対するご支援が喫緊の課題です。その一つとして、お買い物を一緒に行う「認知症サポーター」という取組みを2010年から進めています。現在、全店で600名前後のサポーターが在籍していますが、大切なのは「何かをしなくてはならない」ということではなく、「ひよっとしてお困りかな?」と気遣いをすることや、認知症の方でも差別せず受け入れる、という姿勢だと思います。家族の方にもご安心いただき、平和堂をより信頼いただくことにつながると考えています。



小川 私もこの研修を受けたひとりです。私の地元
に認知症の方がいらっしまったのですが、特
別扱いをせず普通に接していこう、という感覚が、研
修を受けて、誤った解釈でなかったこともあらためて
確認できました。

宇野 昔、自分の親が道で迷っておられたおばあさ
んを警察にお連れした、ということがありまし
た。その対応を見ていた経験が今、役立っています。

鷓鴣 はじめて認知症の方と接すると、戸惑いもある
と思うのです。研修を受けて、その心構えが
あることはスムーズな対応につながると思います。

夏原 認知症の方に限らず、耳の不自由な方や車い
すでいらっしゃるお客様に対しても同様です。
すべてのお客様に不便なくお買い物ができるように、
準備をしておくということです。

激戦とされる総合スーパー業界のなかで、平和堂
は好業績をマークされていますが、社長は何より
お客様第一であり、そして、社員を大切にされて
いることが印象的です。

ピカピカ実現活動は
自分たちも楽しみながら
取り組んでいます。



宇野 弥生

(ピバモール名古屋南店 サービス主任)

2012年度上期ピカピカ実現活動最優秀発表賞第3位、
2013年度下期第1位を受賞したグループをリーダーとして牽引。
また、店舗内クッキングサポートの企画・提案を行うなど、
当社が推進する活動に貢献。

夏原 何より、お客様に「はずむ心でお買い物」をして
いただきたい。地域に平和堂があって幸せだど
思っていたきたい。単に便利だから、ということではな
く、平和堂ファンになっていただくことが大切です。その
ために力を入れているのが社員全員で取り組んでいる
「ピカピカ実現活動」です。例えば挨拶で言うと「おはよ
うございます、いらっしゃいませ。」ではなく、「雨の中を、
お越しいただきありがとうございます。」にしようとい
うことです。さらにお客様の名前でお声がけできれば、な
お素晴らしい。こういったおもてなしの精神を皆で高め
あうのがピカピカ実現活動です。平和堂はこの5年ほ
どご奉仕高の調子がよいのですが、それはピカピカ実
現活動を始めた頃からのような気がします。おそらくそ
の成果が表れているのだと思います。

宇野 活動発表会は、他の売場の好事例が披露され、
とても参考になり刺激にもなります。ピカピカ
実現活動では、店舗装飾に取り組みました。レジ周り
などを飾ると、子どもさんが喜んでくれるんです。その
話題で母さんとの会話が增えたり。自分たちの活動
がそういう形でお役に立てているというのは本当に
うれしいですね。

昨年は平和堂で初めて女性が部長に就任され
ました。女性の活躍を拓げる動きは平和堂でも、
ますます拓がっていますね。

夏原 お客様と積極的に接する「カスタマーリレー
ション部」に女性初の部長職が誕生したの
ですが、トイレの荷物置場の位置など、女性ならではの
視点を活かした改善に取り組んでもらっています。

圧倒的に女性客の比率が高いので、女性社員の声が
経営や店舗運営に反映されるのは当然のことと考え
ています。

小川 私はパートナー社員から、前のお店の店長の
推薦で契約社員となりました。そして、現在は
正社員をめざしています。このような機会をいただ
けるのは、モチベーションも上がりますし、周りの方にも
励みになります。

本持 契約社員から正社員へというステップアップ
にチャレンジいただき、これからもがんばって
ほしいですね。とはいえ女性の活躍推進はまだまだ努
力が必要です。現在店長、課長職以上の女性は5人し
かおりません。店舗の管理職を含めても全体の約4%
です。この比率をさらに向上していくことを意識して
います。そのための施策として、「女性のキャリアア
ップセミナー」を継続開催しています。早いうちから女性
社員自身に高い意識を持っていただくことも大切で
すので、基礎編として入社2年目からの社員を対象とし
たプログラムもスタートさせました。

平和堂のCSRといえば、滋賀県の代表企業とし
て外せない要素として「環境」があります。最近、
注力されている活動を教えてください。



平和堂のCSR活動を
もっと皆さんに
知っていただきたい。

ささき
鷓鴣 真知子

(総務部 CSR推進室長)

ライフサービス事業部HOPカード課長としてHOPカードの
推進に携わった後、販売促進部販促企画課長として
カタログ等の販促ツールの制作を担当。
2016年2月からCSR推進室長に就任。



キャリアアップは自分の
大きな自信になりました。

小川 裕子

(フレンドマート土山店 サービス主任)

2015年度上期ピカピカ実現活動最優秀発表賞第1位
「ありがとうわれ隊(フレンドマート土山店)」において
グループリーダーとしてグループを牽引。

鷓鴣 「平和の緑づくり」という活動を昨年度からス
タートしています。これは緑化のための寄付を
するとともに、小学校などで児童と一緒に植樹するこ
とで自然の大切さに触れていただく、という取組みで
すが、この寄付金は有料レジ袋の収益によるものです。参
加者は、大人だけでなく、児童の皆さんも交えながら楽
しく環境を考えるよい機会にもなると思います。

夏原 平和堂財団で展開している夏原グラントで
は、地域の環境活動を応援する、という取組
みも行っています。やはり一企業だけで取り組んでい
ても意味がない。まずは平和堂のある地域みんなで環
境意識を高めていこう、ということです。

平和堂では創業以来、しっかりとした理念のもと、
真摯に取り組まれてきたことと思います。60周年を
目前に控え、あらためてその先の100年に向けた
多くの取組みにますます期待が高まります。

夏原 先ほど話題になった高齢者問題や環境問題
のほかにも、子どもの貧困という問題も最近
よく聞きますし、いろいろな社会課題があります。そう
いった課題に対して、私はもっと何かできないか、とい
うことを常に考えています。
地域になくってはならない企業として、あらゆるステー
クホルダーの皆さんとコミュニケーションしていきたい。
その積み重ねを大切に100年企業の実現に向け
て邁進いたします。

インタビュー
サンメッセ株式会社
営業企画部長 ソリューション戦略推進室長 田中 信康(経営倫理士)